

がんばろう 南三陸町 復興第90号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
企画・編集
志津川広報センター



今年も志津川地区の「東山の桜」は三部咲きとなりました！ (令和2年4月7日)

第9回追悼式典

令和2年の第9回目になる「南三陸町追悼式典」は、アリーナ「交流ホール」において開催されたものの、「新型コロナウイルス問題」の発生により大幅に縮小され、午後2時～午後7時まで会場において献花をおこなった。
会場では役場職員が、消毒とマスクをしていない方にはマスクを渡していた。慰霊塔の前の献花台が設置された場所までは、職員が来場者を案内してくれた。



広島から新一年生に「愛の福袋」が届く



大震災発生から南三陸町の住民に「愛の福袋」や「掛け声」を仮設生活者に続け、再建が進み新たな支援活動が昨年からはまった。

震災後に生れ「新一年生」となった子供たちに、入学祝いの品々と共に、絵はがきに言葉を添えた活動が昨年からはまり、2年目を迎えた。広島県や山口県・島根県から、町内5校の小学校に73個のプレゼント(手作りバック)が届いた。

南三陸町人口の推移

(令和2年1月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
30年11月	12,999	5,331	1,424	1,954	4,290
2年1月	12,668	5,159	1,381	1,931	4,197
31年1月からの増減数	-319	-169	-53	-21	-83
元年12月からの増減数	-23	-11	-3	3	-6
世帯数	4504	2040	469	651	1344

(2020年1月の新聞記事より)

・1月の出生4人、死亡は20人

南三陸町から結婚した～い！

30歳前後の男性・女性大募集

TEL(080-1801-6399 千葉まで)

1日でも早くパートナーを見つけ出会い、恋愛、デートそして成婚、結婚生活へ。一度相談ください。町内の仲間があなたを待っています。

南三陸町のキラキラ出会い応援事業にも多くの町内の独身の男女が挑戦しています。

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

令和元年(2019年) 10月の出来事
～ 地元報道より～

南三陸町

◆1日から可燃ごみの有料化がスタート。住民が購入する可燃ごみの指定袋の代金が、処理手数料として町に入る。有料化の導入により、ごみの削減効果、資源化を狙うもの。

◆29日町総合体育館「ベイサイドアリーナ」で、南三陸町福祉・健康まつりが開かれた。町内外の福祉事業所や企業など約30団体がブースを設けた。各施設の活動を紹介したり、障害者ら施設利用者が手掛けた作品の展示販売を行ったりした。

◆6日入谷地区でワイン用ブドウの初収穫が行われた。地元で育てた高品質な「南三陸ワイン」の生産に向けた手応えをつかんでいた。来春にも歌津地区にブドウ栽培畑を拡張する計画で、来年8月には町内に醸造所を開設する予定。

◆一般社団法人日本旅行業協会の役員らが、3日と4日気仙沼市と南三陸町を訪れ、「みちのく潮風トレイル」などを視察した。県内は今回が初めてで、役員や会員会社の幹部を含む68人が参加。

◆台北市から教育旅行の小学生が訪れていて、名足小学校を訪問し、児童と交流を深めた。2日から町内を訪れているのは、台北市文山区の萬興国民小学の5、6年生32人と教員で、3日に志津川小学校、5日は南三陸さんさん商店街などを訪れ、6日に帰国する。

◆志津川東地区復興住宅中央広場で、「走らないミニ運動会」が10日開かれた。復興住宅をはじめ、町内の住民や近くのあさひ幼稚園の園児ら約120人が参加した。気軽に参加できるように、種目から走ることを除いたユニークな企画。

◆志津川湾水系さけます増殖協会は、今シーズンも沿岸漁業者による網揚げを行なうことを、9日志津川魚市場で開いた総会で決めた。協会は震災前レベルの1千万匹以上の稚魚放流を目標にしているが、自河川での種卵確保は近年きびしい状況が続いている。

◆厚生労働省が再編・統合を促すため公表した全国の公立病院が含まれている。町長は定例会で統合の必要性はないとの考えを示した。

◆志津川では台風19号により、24時間雨量が観測史上最大を記録した。12日午後4時までに町内10カ所に避難所を開設。約1500世帯に避難勧告を出した。9ヶ所に最大185人が身を寄せた。

入谷地区では全域の約600戸で断水した。町道でも道路が陥没して通行止めになるほどの被害が出た。床上、床下浸水被害もあった。

◆台風19号による農地への土砂流入、川や沢の増水による法面崩壊などの被害報告が多く寄せられた。戸倉地区の畑では、土砂が流入して葉物が被害を受けたという。

◆記録的な大雨をもたらした台風19号により、志津川、小森、御前下地内の店舗などでは、被災から2日が経過したが従業員らが片付け作業などに追われている。

◆南三陸署などが、15日の年金支給日に七十七銀行志津川支店前で高齢者らに、特殊詐欺被害にあわないよう注意を呼び掛けた。県内の特殊詐欺被害は今年9月末現在172件・2億2千万円と、前年同期と比べて減少している。

◆東京電力福島第一原発事故で汚染された、牧草の先行すき込み処理作業を28日からおこなう。町内16軒の農家で保管していて、入谷桜沢地内の牧草地に混ぜ込む。

◆復興支援を通じてつながりのある大正大学は、2016年に地域創生学部を開設。南三陸研修センターが主体となって受け入れている。今年は22人が約40日間にわたって滞在し、生産者や事業者らの協力を受けながら、観光やコミュニティづくりなどをテーマに、研究を行なっている。

◆20日歌津地区の船員OBでつくる歌津海友会が、管の浜漁港などで清掃作業を行った。例年、

名足小学校の児童と一緒に長須賀海岸で清掃活動を行っていたが、今年は防潮堤工事に伴ってできなくなったため単独で実施した。

◆2011年8月に初めて南三陸町にボランティアに入った山形県米沢市の筈掛さん(80)は、あさひ幼稚園の被災を知った。山形に戻って地元の学校などに絵本やおもちゃの協力を呼び掛け、南三陸町に届けた。ほかにも被災した保育所があることを知った筈掛さんは、果物などを届けたほか紙芝居を持参して子供たちを喜ばせてくれた。その活動を振り返る写真展が総合ケアセンター南三陸で開かれた。

◆南三陸ハマレ歌津に、ポケモンのキャラクター「ラプラス」が描かれたマンホールのふたが設置された。早速写真を撮りに来るファンもいて、オリジナルのマンホールふたを目当てに各地を巡るファンもいるという。

◆24日南三陸ホテル観洋で、外国人の視点から被災地の記録と伝承について考える講座が開かれた。災害研究などをテーマに、情報共有や意見交換をおこなっている神戸大学都市安全研究センターのオープンゼミナールとして開催され、語り部活動を行なっている関係者ら約30人が参加。

◆南三陸町生涯学習センターで26日、1分間で自分の思いや夢を語るイベント「Talk Your Will in 南三陸」が開かれた。小学生から50代までのプレゼンターが町内、気仙沼市、仙台市などの学生や農家、漁業者らが、日頃から感じている思いや、未来への希望などを1分間にまとめて発表した。

◆27日志津川湾鮭いくらまつり福興市が、志津川仮設魚市場特設会場で開かれた。サケの一本売りは、開始前から列をつくるほどの人気ぶりだった。ミニミニいくら丼の無料試食会がおこなわれたほか、17店舗のブースでは「サケづくし」のメニューが並んだ。

◆八幡川、水尻川で28日、今シーズンの捕獲作業が始まった。捕獲開始は、台風19号などの影響で延期していた。捕獲数は昨年初日の5分の1と厳しいスタートとなった。